

板野西小学校  
「学力向上実行プラン」

- ①「主体的に学習する力を伸ばす言語活動の充実」
- ②「学校と家庭との役割分担による家庭学習習慣の確立」

学力向上推進員 (教諭) 西川 美恵  
委員 (校長) 中島達司 (教頭) 植木啓仁 (教諭) 上田純子・藤井明美・上岡裕美・佐野洋子・大藪賢一・山口由美・久米慶季 (栄養教諭) 森久美 (助教諭) 木内愛 (養護助教諭) 山下優子

校長 中島 達司

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況	
よさ 課題	課題に対して根気よく考え、まじめに取り組むことができる。漢字や計算の反復練習の徹底により、基礎基本事項の定着が見られる。	①語彙数が増え、正しい言葉で文章を読んだり書いたりできる。 ②基礎的・基本的な知識技能を確実に身につけることができる。	基礎的・基本的な事項についての定着確認テストで、8割以上を80%の児童が習得する。			
	具体的方策(教員の取組)	取組指標		評価	次年度における改善事項	
	①視写・聴写・音読・暗唱・日記・作文指導などを継続して学習活動に取り入れる。 ②内容別のプリントの充実を図り、到達度に合わせて自分で課題を設定できる能力を育成していく。	①日に2回の「ドリル学習」の時間や「ふれあい学習」の時間を有効に利用する。 ②週にモジュール方式で1時間程度の復習タイムを確保する。				

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 課題	音読や調べ学習の発表など、方法や手順が分かる表現活動には積極的に関わることができる。	話し方(わかりやすいスピーチの仕方)や書き方(段落や文章の構成を考えて書く)に関する知識を理解し、実際の場面で活用できる。	自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが難しいと感じている児童の割合を25%以下にする。		
	具体的方策(教員の取組)	取組指標		評価	次年度における改善事項
	①自分の考えを筋道立てて文章に書く・表現する機会を意図的に設ける。 ②読解力を伸ばすため、多様な問題形式を取り入れる。	①自分の考えを筋道立てて発表する機会を1週間に1回以上。 ②ドリル学習の時間に、読解問題を週2回以上。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 課題	基本的な生活習慣や家庭学習の習慣が定着している児童が多い。	家庭学習の習慣を身につけ、与えられた課題以外にも主体的に学習に取り組むことができる。	家庭学習や読書など、課題以外にも自主的に取り組める児童の割合を70%以上にする。		
	具体的方策(教員の取組)	取組指標		評価	次年度における改善事項
	①宿題はするが、自主的な学習時間は短い。 ②学校での読書活動は定着しているが、家ではほとんど読まない子が見られる。	①必読図書の既読達成率50%を目指す。			

平成27年度 学力向上ロードマップ

